

# 子供の生活を守る、ことが 何よりも最優先でした

30数カ国から50人以上の生徒が通う英語学校を運営する青井さん。2人の子供を育てた彼女は、3度の離婚も経験。ビジネスオーナーとして多忙を極めながらも、「子供はパワーの源」と懸命に働く青井さんには、確固たる子育ての目標があった。



多忙なビジネスオーナーの  
シングルマザー  
青井ゆかりさん

迎したり仕事をしてても支障はありませんでした。しかし、その後学生が増えたため人を雇い、同時にナーも雇用。子供の送迎ができないため、学校のすぐ前に家を構えました。

事業拡大とともに私は多忙を極めました。母親である以上、子供との時間の確保は重要です。就業時間外に子供を置いてミーティングに出る余裕などありませんでした。

私は『ホームステイがもつと楽しくなる本』『逆風満帆』という本を出しています。ビジネスオーナーとして、そしてシングルマザーとしての苦労や喜びを紹介することで、私と同じ境遇の方の参考になればと思います。そこでも紹介したのですが、私はいざとなれば、何をおいても子供を取る覚悟で仕事をしていました。それほど子供は大きな存在で、人生で子供の生活を守ることが最優先でした。毎日子供にご飯を食べさせないといけないですから、落ち込んだり悩んでいる暇はありませんでした。

## 日本語を正しく話し 世界に通じる子供に育てる

アメリカでは、両親が日本人でも日本語がままならない子供がたくさんいます。ですから、私にとって子育ての一番の目標は、日本語を正しく話し、

日米文化をしっかりと理解した子供に育てること。これが責務と思っていました。ですから、どれだけお金がない時でも、毎年必ず夏に1カ月ほど日本留学させました。もちろんステイ先は日本人の家庭で、英語を避けるため、2人を別々の家庭に滞在させるなど徹底しました。

去年、長男は3カ月間ピースボートに乗船し、日本人の若者と寝食を共にしながら、22カ国を巡りました。この経験や、それまで私が提供してきた機会を通して、多様な文化と考え方を理解した国際人になってほしいと願っています。

振り返ると、やはり私は専業主婦のお母さんに比べて、子供と過ごす時間が少なかったと思います。今は子育てが一段落していますが、その時の口スを埋め合わせたい気持ちで、今後時間を一緒に過ごしたいと思っています。実はピースボートには、息子と一緒に私も乗ったんです。

私の経験から言わせていただくと、相手が暴力的だったり薬物依存でない限り、離婚はおすすめしません。アメリカのあるデータでは、初婚の離婚は約75%で、再婚の離婚は80%超。結婚・離婚を繰り返すと、誰よりもご本人が一番傷付きます。せめて子供が成人するまでは、ご両親が揃っていた方がよいと思います。



「日本文化も正しく理解し、国際的に通じる人間に育てたい」と語る青井さんと2人の子供

留学先のハワイでアメリカ人男性と知り合い、1988年に結婚。日本に戻り、夫婦で英会話教室を経営しました。2人の子供に恵まれ、公私共にこれからという時、夫婦間に歪みが生じてきました。91年、家庭再生のため、心機一転アメリカに引っ越しましたが、翌年彼は1人で日本に戻りました。これが、私がシングルマザーになった理由です。当時、子供は1歳と2歳。私はすでに仕事を見つけていたため、アメリカに残り子育てをする決心をしました。

また。ベッドはなく寝袋で就寝。収入の大半はペーシックター代に消えました。それでも頑張れたのは、子供がいたから。子供はパワーの源でした。こんな生活が3年ほど続き、日本人男性と再婚(後に離婚)。彼の仕事の都合で日本に戻ったのですが、アメリカ生活が長い彼もアメリカの方が暮らしやすいと、95年に戻って来ました。同時に、私はアーバインを拠点にホームステイの斡旋会社を設立。その半年後、現AO College of Languagesの前身となる英語学校を設立しました。ビジネスを始めた頃は、学生も少数で、子供連れで空港に送